第１回 妊娠出産子育て
基本調査・フォローアップ調査（妊娠期～２歳児期）
はじめてのペアレンティング研究会

調査検討委員会メンバー

- 小林 登（委員長・ベネッセ次世代育成研究所所長、東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長）
- 大日向雅美（恵泉女学園大学大学院教授）
- 榊原洋一（お茶の水女子大学大学院教授）
- 菅原ますみ（お茶の水女子大学大学院教授）
- 丸 光恵（東京医科歯科大学大学院教授）
- 後藤憲子（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員）

ワーキンググループメンバー

- 菅原ますみ（お茶の水女子大学大学院教授）
- 酒井 厚（山梨大学准教授）
- 松本聡子（お茶の水女子大学リサーチフェロー）
- 梅崎高行（甲南女子大学准教授）
- 高岡純子（ベネッセ次世代育成研究所主任研究員・調査事務局）
- 田村徳子（ベネッセ次世代育成研究所研究員・調査事務局）
- 持田聖子（ベネッセ次世代育成研究所研究員・調査事務局）

妊娠出産子育て基本調査既刊のご案内

報告書・速報版は無料です

「第１回妊娠出産子育て基本調査報告書」

妊娠期から2歳までの子どもを持つ夫婦を対象に、妊娠・出産・子育ての実態把握や、子育て生活と夫婦のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）との関連性をとらえたアンケート調査の報告書と速報版です。

「第１回妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査報告書」（妊娠期～0歳児期）／（1歳児期）

「第1回妊娠出産子育て基本調査」で妊娠期だったご家族とその後追加したご家族あわせて約300組を、毎年継続して追跡。親になるプロセスと子育ての状況を探ったアンケート調査の報告書と速報版です。

上記の刊行物はすべてホームページからご覧いただけます。

http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/

ベネッセ次世代育成研究所　検索

第１回　妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査（妊娠期～2歳児期）速報版
（株）ベネッセコーポレーション　ベネッセ次世代育成研究所
発行日：2011年4月30日　発行人：新井健一　編集人：後藤憲子　調査担当：高岡純子、田村徳子、持田聖子
デザイン：Concent, Inc.　イラスト：papakaori

〒163-0411　東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビルディング
TEL：03-5320-1229　FAX：03-5320-1257　＊受付時間／10:00~17:00（土・日・祝日除く）

OTH006　この冊子は、再生紙を使用しています。
©ベネッセ次世代育成研究所／無断転載を禁じます。

速報版

妊娠期から子どもが２歳になるまでの
家族の成り立ちを探る

第１回
妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査

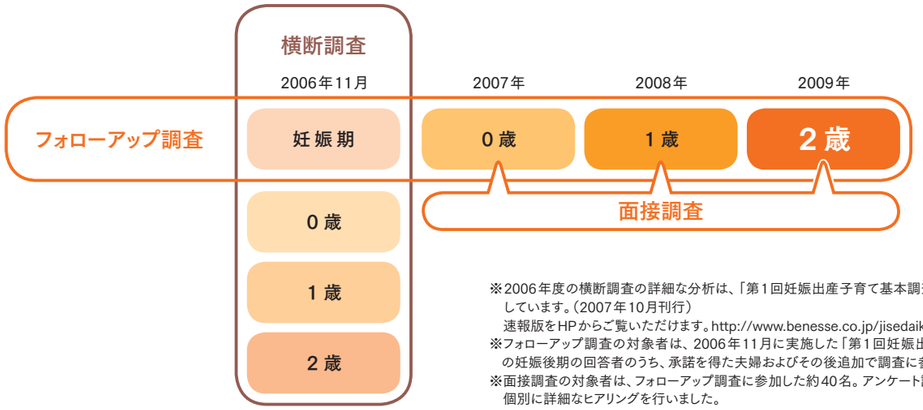
妊娠期～２歳児期

Benesse®
次世代育成研究所

2011年4月

本調査について

本調査は、はじめての子どもを持つ夫婦が、出産、子育てをどのように迎え、親として子育てにどのように取り組んでいくのかを明らかにする目的で実施したものです。2006年度に妊娠後期から2歳までの子どもを持つ家族の実態を横断的に把握しました。2007年度より2006年度調査で妊娠後期だったご家族を、毎年、継続して追跡することで、親になるプロセスと子育ての状況を探るフォローアップ調査を実施しています。今回の速報版は、フォローアップ調査のうち、妊娠期から子どもが2歳児後半になった時点までのご家族（妻・夫）288組のアンケートを分析したものです。



※2006年度の横断調査の詳細な分析は、「第1回妊娠出産子育て基本調査」報告書として発刊しています。（2007年10月刊行）
速報版をHPからご覧いただけます。http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/
※フォローアップ調査の対象者は、2006年11月に実施した「第1回妊娠出産子育て基本調査」の妊娠後期の回答者のうち、承諾を得た夫婦およびその後追加で調査に参加した夫婦288組。
※面接調査の対象者は、フォローアップ調査に参加した約40名。アンケート調査の内容について、個別に詳細なヒアリングを行いました。

調査概要

● 調査テーマ

夫婦の妊娠期から育児期における家族のQOL*と子育て環境との関連性、生活の実態など

● 調査と方法

フォローアップ調査

調査方法：郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）
対象者：第1子の妊娠期から2歳までのフォローアップ調査に同意し、調査に中断することなく継続して参加した夫婦288組
調査時期：2006年から4年間（年1回調査／11月・6月の2グループ）
調査地域：全国

実施時期	11月グループ	6月グループ
妊娠期妻・夫（288組）	2006年	2007年
0歳児期妻・夫（288組）	2007年	2008年
1歳児期妻・夫（288組）	2008年	2009年
2歳児期妻・夫（288組）	2009年	2010年

面接調査

対象者：フォローアップ調査に参加している妻・夫約40名
調査時期：2008年～2010年7月～8月
調査地域：東京・熊本
※東京の一部、熊本は、2009年以降、面接調査の内容をもとにした自記式アンケートを郵送により配布・回収

● 調査項目

家庭での養育機能、夫婦の相互サポート、夫婦の愛情関係、親と子のQOL*、子育てのストレス、ワークライフバランス、子どもの行動の特徴、子どもの発達、子どもの生活時間（日誌形式）

＊WHO（国際連合世界保健機関）QOLについて

QOL（クオリティ・オブ・ライフ、生活の質）とは、人々が感じている自分自身の生活の良質さのことです。『WHO QOL26』は、国際連合世界保健機関（WHO）が定義する“健康”（身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること）の概念に沿って作成されました。今回の調査で使用したWHO開発の『WHO QOL26』質問項目は、出版元、株式会社金子書房の許可を得て使用しました。

はじめての子の妊娠がわかり、出産を迎え、はじめての子育てに取り組む乳幼児期、
家族にはさまざまな喜びやとまどいが生まれます。
子どもが成長していく中で、家族はどのように子育て環境を整え、
子育て意識や子どもとのかかわりを育んでいくのでしょうか。

子どもが生まれる前の妊娠期から2歳児期まで、中断することなく継続して
毎年の調査にご協力いただいたご家族（妻・夫）288組の変化を通して、
はじめて子育てに臨む家族の成り立ちを探ります。

はじめての子どもを持つ親が、妊娠期から子どもが2歳児になるまで、スムーズに発達するのに影響するものは？

子どもの健やかな成長にとって、家族の生活の良質さはどのように関係するか？

● ● 4つのポイントから見ていきます ● ●

POINT 1 親と子のかかわりの変化

POINT 2 夫婦の相互サポートの変化

POINT 3 相談先や地域のサポート・ネットワークの変化

POINT 4 仕事と子育ての状況の変化

ご家族のかたへ

日々の子育てにおいて、うれしかったり、悩んでしまったりということがいろいろ起こります。この調査では、小さなお子さまをお持ちのご家族のかたが、親子や家族でのかかわりを育むとき、子育てで大切となるポイントや起こりうる課題、その解決方法などを明らかにしてお伝えしたいと思っています。

ぜひ、調査結果をお読みいただき、日々の子育てのヒントにしていただければ、心よりうれしく存じます。

家族をサポートするかたへ

はじめての妊娠・出産・子育てという家族にとっての大きなイベントの中で、家族はどうイベントを迎え、どのような変化をしていくのでしょうか。妊娠期から子どもが2歳児になる4年間を、同じご家族を毎年調査することで、どの時期に何を求めているのか、どのような家族が課題に直面しやすいのかが少しずつわかってきました。ぜひ、調査結果をご覧いただき、家族をサポートする活動のご参考にしていただければ幸いです。

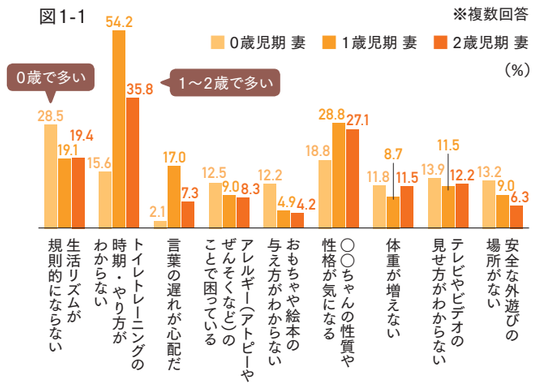
POINT 1 親と子のかかわりの変化

家族にはじめての子が誕生し、乳幼児期を過ごす中で、家族は何を経験し、
どのような関係を育んでいくのでしょうか。0歳児期、1歳児期、2歳児期での変化を追いつつ、
親子のかかわりと妻と夫の子育て意識の違いや移り変わりをみていきます。

子育ての悩みの変化

Q 現在、○○ちゃんのことで悩んでいることはありますか。

図1-1　※複数回答



上位6位（2歳児期 妻）　(%)

1位	子どもの食事のマナー（遊び食べなど）が気になる**	38.5
2位	トイレトレーニングの時期・やり方がわからない	35.8
3位	ほめたり、叱ったりするときの、ちょうどいい加減がわからない**	35.1
4位	食事の好き嫌いが激しい**	31.9
5位	○○ちゃんの性質や性格が気になる	27.1
6位	○○ちゃんの友だちとのかかわり方が気になる**	24.0

** 2歳児期に加えた項目

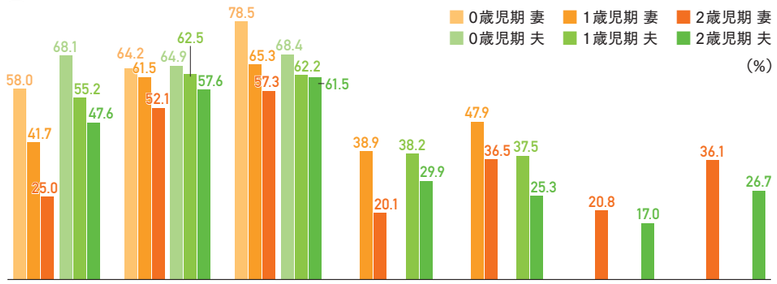
0歳で「生活リズム」、1～2歳で「トイレトレーニング」「性質・性格が気になる」が多くなる。

子育ての悩みとしてあげられた項目を0歳児期から2歳児期まで比べると、子どもの成長に従って変化しています。0歳児期では「生活リズムが規則的にならない」がもっとも多く、1歳児期では「トイレトレーニング」「性質や性格」「言葉の遅れ」について、2歳児期では表にあるように、「食事のマナー」「ほめたり叱ったりの加減」などが多くなっています。

養育行動の変化

Q あなたは○○ちゃんの子育てについて、どのように考えたり、行動したりしていますか。

図1-2　※「あてはまる」の割合



* 1歳児期に加えた項目　** 2歳児期に加えた項目

親からの積極的な言葉がけや遊びへの誘いは、子どもの成長に従って減る。

子どもとのかかわりについての15項目のうち、0歳児期から2歳児期で変化のみられた3項目と1歳児期に加えた2項目、2歳児期に加えた2項目を表示しています。子どもの年齢があがると「温かくやさしい声で話しかけている」「いろいろなことを話すのを喜んでいる」や「『ごめんね』と言える」「遊びに誘っている」「要求を言葉で表して話しかけている」の項目で、「あてはまる」の割合が減っています。決まりごと（ルール）の説明は2歳児期では2割弱から3割の親が行っています。

子育て生活での経験とストレスの変化

Q あなたのご家庭の様子についておうかがいします。

※経験率は「経験したことがある」と答えた割合
※イライラ度は「経験したことがある」と答えた人で「非常に＋ややイライラする」と答えた割合を示す

図1-3
（妻）

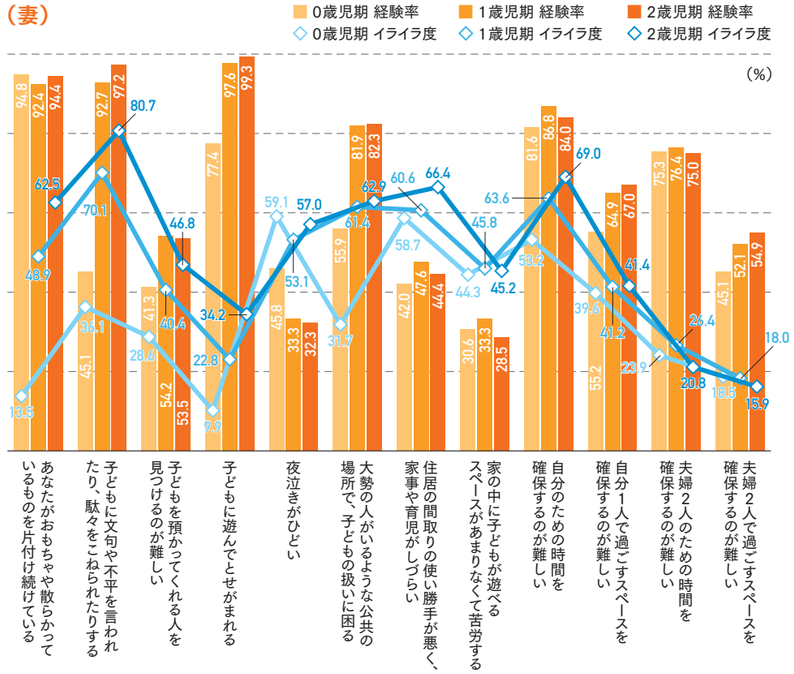
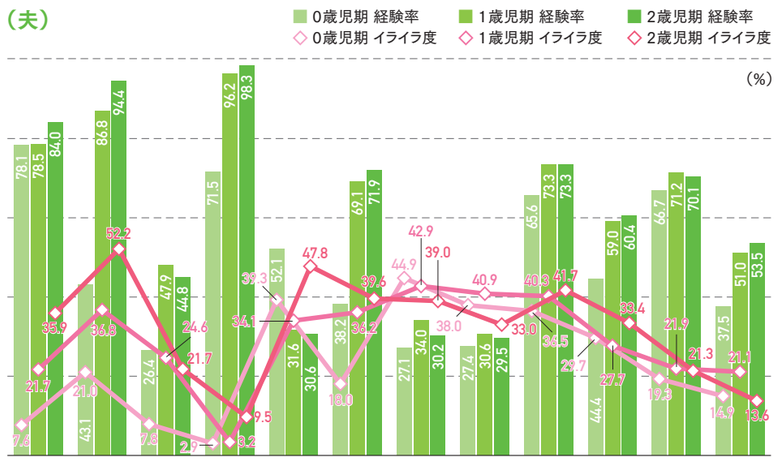


図1-4
（夫）



1歳で子育て生活で直面する経験とストレスが一気に増え、2歳でも減らない。

子育て生活でストレスになりうる12項目について、経験の有無とそのイライラ度を聞いた結果です。乳幼児期を通して経験する割合が高いのは、「おもちゃや散らかっているものを片付け続けている」「自分のための時間を確保するのが難しい」「夫婦2人のための時間を確保するのが難しい」でした。子どもの年齢があがると経験する割合が高くなるのは、「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」「子どもに遊んでとせがまれる」「大勢の人がいるような公共の場所で、子どもの扱いに困る」の項目で、0歳児期から1歳児期にかけて大きく増えています。

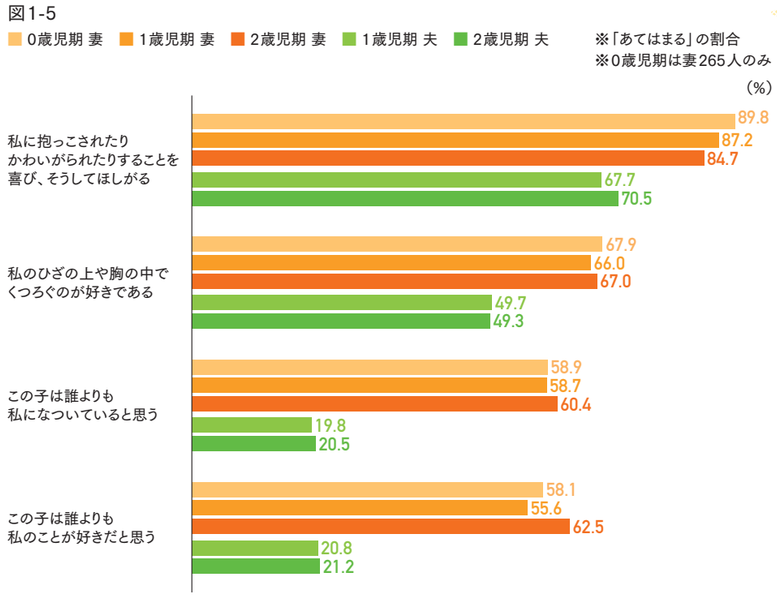
イライラする割合をみると、乳幼児期を通して、妻が夫に比べて全体的にイライラする割合が高くなっています。図1-3をみると、妻の場合、イライラする割合が高いのは「おもちゃや散らかっているものを片付け続けている」「子どもに文句や不平を言われたり、駄々をこねられたりする」「大勢の人がいるような公共の場所で、子どもの扱いに困る」「住居の間取りの使い勝手が悪く、家事や育児がしづらい」「自分のための時間を確保するのが難しい」の項目で、1歳児期で増え、2歳児期でも引き続き高い傾向がうかがえます。

愛着関係の構築

Q ○○ちゃんとのことについておうかがいします。

愛着

図1-5

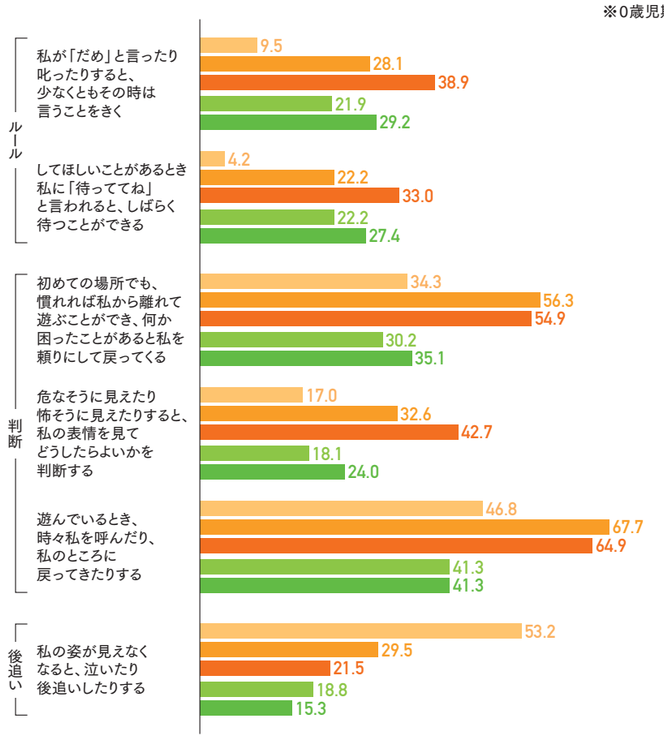


親子の愛着関係は子どもの年齢による変化は少なく、妻のほうが夫より高い。

親子の愛着に関する4項目について聞いた結果です。子どもの年齢にかかわらず、数値はほぼ一定しています。また、「この子は誰よりも私になついていると思う」「この子は誰よりも私のことが好きだと思う」では、妻のほうが夫より40ポイント前後高く、「私に抱っこされたりかわいがられたりすることを喜び、そうしてほしがる」や「私のひざの上や胸の中でくつろぐのが好きである」では、妻のほうが夫より10ポイント以上高くなっています。

ルール、判断、後追い

図1-6



ルールや判断、後追いの行動は子どもの年齢により変化する。

ルールに関する2項目、判断に関する3項目、後追いに関する1項目について聞いた結果です。ルールや判断に関しては、子どもの年齢があがると「あてはまる」の割合が増え、後追いに関しては減る傾向が強くなっていました。

また、ルールの項目をみると、妻と夫の差が他の項目に比べて少ない傾向にありました。

養育意識の変化

Q ○○ちゃんの子育てについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

年齢を追うごとに楽しさが減り、負担感、不安感が増える。成長感は、妻は下がり、夫は上がる。

子育て意識に関して聞いた結果です。妻・夫とも、子どもが成長するにつれて、「子育てが楽しいと心から思う」は減り、「子育てのためにいつも時間に追われていて苦しい」「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」が増えています。とくに時間に追われている、子どものことでどうしたらよいかわからなくなる意識は妻のほうで増えています。また、1歳児期から2歳児期にかけて、「親としてそれなりにうまくやれていると思う」といった成長感は、妻は減り、夫は増える傾向がみられました。

図1-7

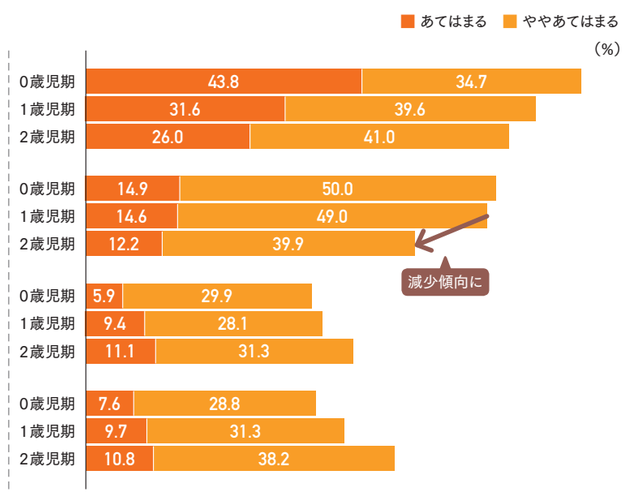
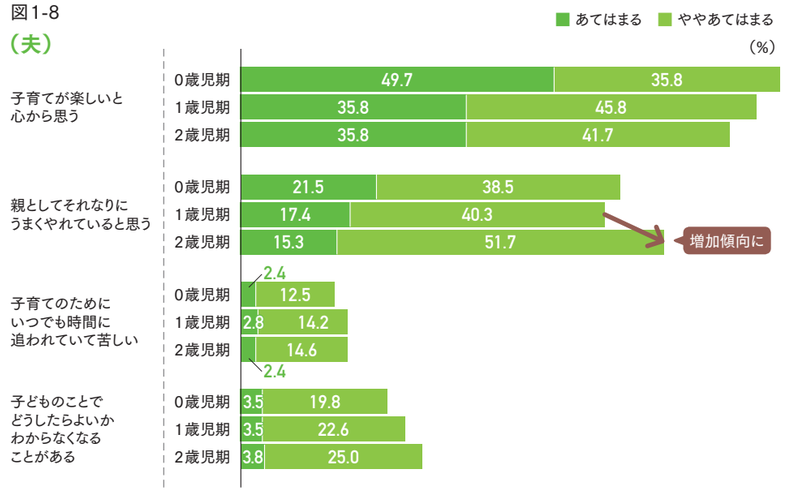


図1-8



調査検討委員会より こんなサポートが助かる

はじめに、図1-3、4をみると、妻・夫ともに「子どもに遊んでとせがまれる」ことへのストレスが低く、図1-7、8の「子育てが楽しいと心から思う」でも、0歳児期で「あてはまる＋ややあてはまる」の割合が8割前後であることから、日々の子育てが大変でありつつも子育てを楽しんでいる状況を押さえたいと思います。その中で、図1-3、4で妻と夫のイライラする割合が同じパターンでみられますが、妻が高くなっています。これは子どもと接する時間が夫より長いことが関係すると思われます。また「子どもに文句や不平を言われたり駄々をこねられたりする」など日々の子育てストレスが高い一方、図1-6をみると子どもは年齢を追うごとにルールや判断などで「あてはまる」の割合が増えています。図1-7、8の「親としてそれなりにうまくやれていると思う」は、子どもの年齢が上がるごとに妻は減少、夫は増加の傾向です。妻は子どもと距離が近いからこそ日々の子どもの成長が見えにくく、親として成長感が感じにくい状態にあり、夫は少し離れているからこそ子どもの成長が見え、親として成長感を感じるのかもしれません。夫婦や子育てサポートで、長い目で子どもの成長に気付く機会を作ると、あらためて子育てを前向きに捉えるきっかけになるのではないでしょうか。

POINT 2 夫婦の相互サポートの変化

はじめての子育てに対して、親はさまざまな試みを重ねながら取り組んでいきます。妊娠期から2歳児期を通して、妻と夫は日々の生活をどのように互いに調整し、互いの精神的な支えとなっているのでしょうか。ここでは、夫婦の相互サポートの変化についてみていきます。

家事・育児の分担

Q 次のようなことについて、あなたはどのくらいなさっていますか。

炊事（食事の用意・片付け）

図2-1 ■ほとんど毎日する ■週に3～5回する ■週に1～2回する ■ほとんどしない ■無答不明

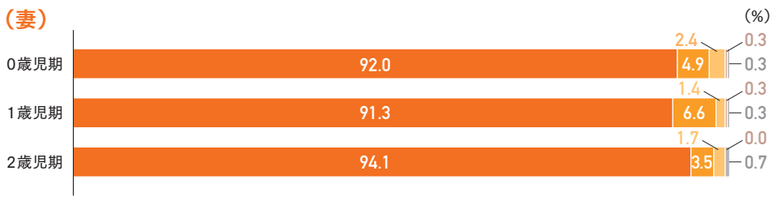
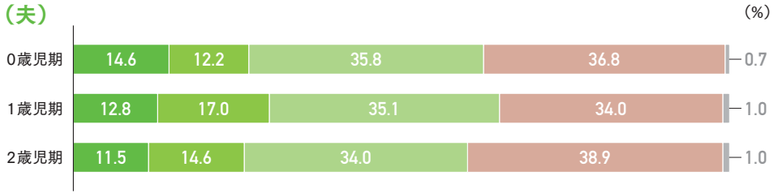


図2-2 ■ほとんど毎日する ■週に3～5回する ■週に1～2回する ■ほとんどしない ■無答不明



○○ちゃんと遊ぶ

図2-3 ■ほとんど毎日する ■週に3～5回する ■週に1～2回する ■ほとんどしない ■無答不明

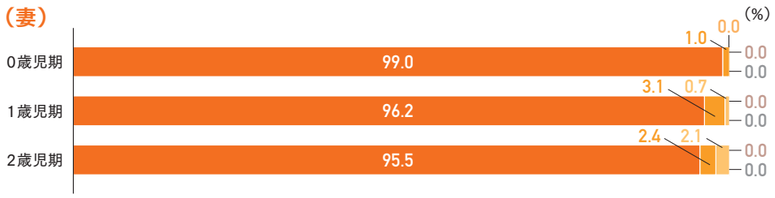
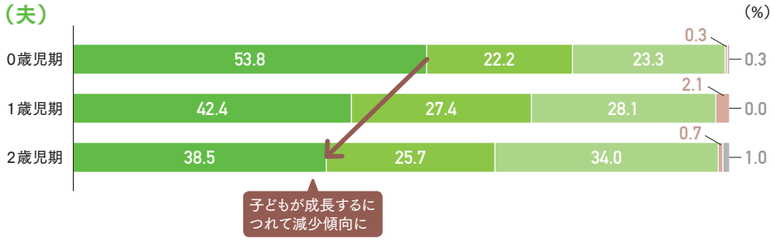


図2-4 ■ほとんど毎日する ■週に3～5回する ■週に1～2回する ■ほとんどしない ■無答不明



妻・夫ともに家事を行う頻度は変化しない。夫が子どもと遊ぶ頻度は、子どもが成長するにつれて減る。

妻・夫の家事と育児の取り組みについてたずねた中で、家事として「炊事」、育児として「○○ちゃんと遊ぶ」を示しています。図2-1、図2-3をみると、妻の場合、子どもの年齢にかかわらず、「炊事」「○○ちゃんと遊ぶ」を「ほとんど毎日する」と回答した人は9割以上でした。図2-2、図2-4をみると、夫の場合、「炊事」は「ほとんどしない」人が3割を超えています。また、「○○ちゃんと遊ぶ」について、「ほとんど毎日する」の割合は0歳児期53.8％、1歳児期42.4％、2歳児期38.5％と減り、子どもが成長するにつれて遊ぶ頻度が少なくなる様子がうかがえます。

夫婦関係の変化

Q あなたと配偶者の方とのことについておうかがいします。

※「あてはまる」の割合

図2-5
結婚生活、愛情関係

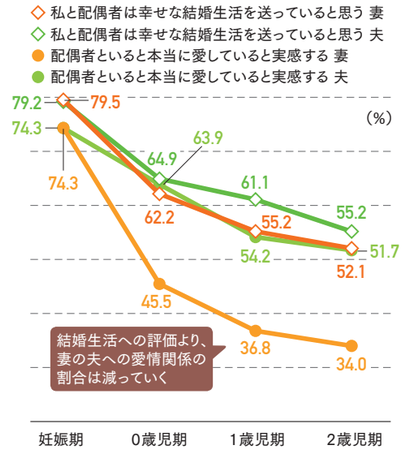


図2-6
家事・育児分担の助け合い

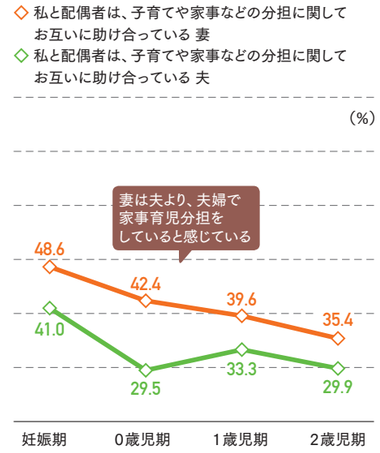


図2-7
配偶者の悩みや不満に耳を傾ける

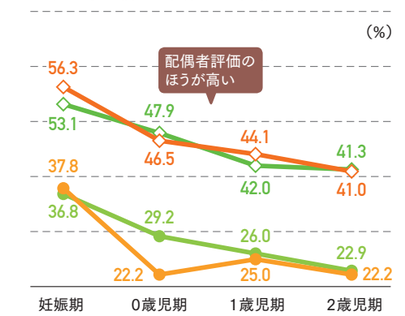
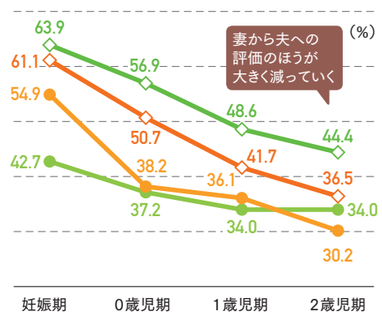


図2-8
配偶者の仕事や家事をねぎらう



妻の夫への愛情とねぎらいへの評価が減り続ける。

妻・夫に、自分と配偶者の関係を聞いた結果について、妊娠期から2歳児期までをみたものです。図2-5をみると、結婚生活への評価は妻と夫の差は少ないのですが、妻から夫への愛情は「あてはまる」の割合が妊娠期から0歳児期にかけて大きく減り、そのまま減り続ける傾向にあります。妻の場合、家族としては幸せだが、夫への愛情は変化しているということかもしれません。

図2-6をみると、夫婦での家事・育児分担は、妻のほうが夫より夫婦で分担していると感じる割合が高くなっています。

図2-7をみると、「配偶者の悩みや不満に耳を傾ける」について、妻・夫ともに自分が「あてはまる」と答える割合に比べて配偶者からの評価のほうが20ポイントほど高くなっています。

図2-8をみると、「配偶者の仕事や家事をねぎらう」について、妊娠期から2歳児期にかけて配偶者評価で「夫は、私をねぎらってくれる」に「あてはまる」と答える割合が20ポイント以上減っていました。

調査検討委員会より こんなサポートが助かる

図2-1～4より妊娠期から2歳児にかけて妻が家事・育児を圧倒的に担う実態が明らかになりました。家事は、夫が子どもの誕生や成長をきっかけに新たに担うことが少なく、妻が専ら担う状態にあるようです。一方、育児は夫も担う傾向にありますが、図2-4をみると子どもの年齢が上がるとかかわる頻度が減少しています。14、15ページでも紹介しますが、夫の就労時間と子どもとのかかわりには関連がみられます。2歳児期ともなると、0歳児期と違い、夫の職場でも乳幼児がいる家庭への理解が薄れ、早く帰ることが難しくなるのかもしれません。

図2-7～8では、妊娠期から2歳児期にかけて「悩みや不満に耳を傾ける」や「仕事や家事をねぎらう」で配偶者評価より自己評価が低いのが気になりました。はじめての子育てに取り組む中で、妻も夫も日々戸惑い、不安を感じます。そのとき、夫婦の関係において相手の悩みや不満に耳を傾けたりねぎらったりすることに、配偶者評価と同じくらい自己評価を保てることも日々の子育てを支える基盤として大切に思います。

POINT 3 相談先や地域のサポート・ネットワークの変化

妊娠・出産、子育てと家族が大きな変化をとげる中、妻と夫は身近な人や地域の人などとどのようにかかわり、サポートを受けているのでしょうか。また、子育てについての情報を、どこから得ているのでしょうか。相談先や情報源、子育てプログラム、地域の人とのかかわりをみていきます。

相談先の変化

Q ○○ちゃんの（妊娠・出産、）子育てについて、相談したり話し合ったりしたことがある人は誰ですか。

家族や身近な人

図3-1 ■いつも相談している ■時々相談している

（妻）

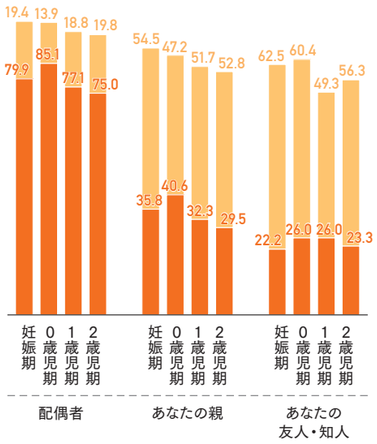
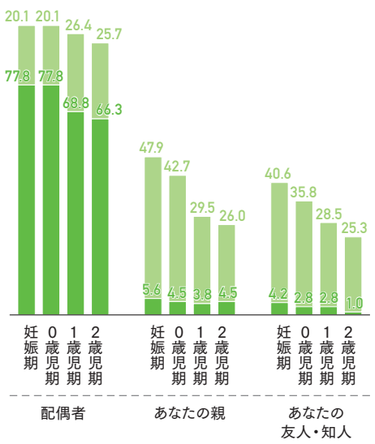


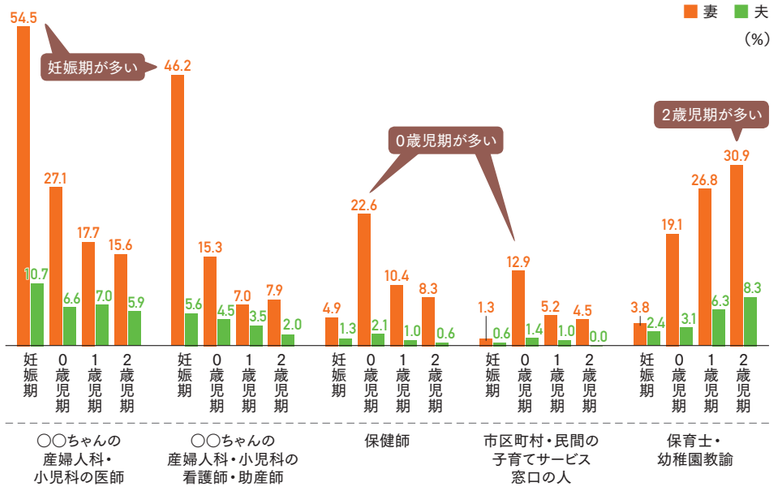
図3-2 ■いつも相談している ■時々相談している

（夫）



専門性のあるサポート

図3-3 ※「いつも＋時々相談している」の割合



夫は、配偶者以外の子育ての相談相手が少ない。妻は相談先が多く、1年ごとに細かく変わる。

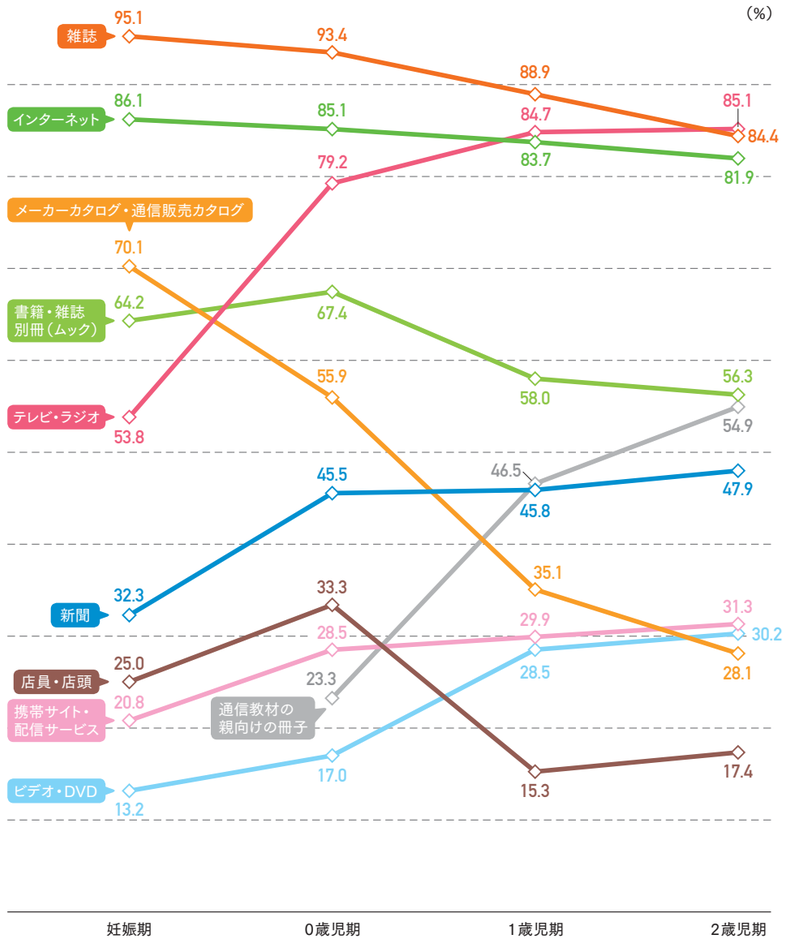
図3-1、図3-2は家族や身近な人への相談についてまとめたものです。妻の場合、妊娠期から2歳児期を通して「配偶者」「あなたの親」「あなたの友人・知人」に相談する頻度が高くなっています。一方、夫が相談するのは圧倒的に「配偶者」でした。また、子どもの年齢があがるにつれて、相談する頻度が減っていきます。

図3-3は専門性のあるサポートへの相談についてまとめたものです。妻の場合、家族や身近な人に加えて、妊娠期には医師・看護師・助産師、0歳児期には保健師・子育てサービス窓口の人など行政サービスにも相談しています。2歳児期になるにしたがって、「保育士・幼稚園教諭」への相談が増えています。

妊娠・出産、子育てに関する情報源の変化

Q （妊娠・出産、）子育てに関する情報を得るために、利用したことがあるものは何ですか。

図3-4 ※妻のデータ ※複数回答 ※13項目のうち10項目を表示



常に多いのは「雑誌」と「インターネット」。妊娠・出産、子育てに関する情報源も1年ごとに細かく変わる。

妊娠期から2歳児期になるまで、妊娠・出産や子育て期の情報源の変化をみると、常に多いのは「雑誌」と「インターネット」でした。

妊娠期や0歳児期では、成長に応じた育児用品が必要なため、「書籍・雑誌別冊（ムック）」や「メーカーカタログ・通信販売カタログ」「店員・店頭」が他の年齢に比べて多くなっています。

0歳児期から2歳児期までの子育て期では、「雑誌」や「インターネット」に加え、「テレビ・ラジオ」の利用が増え、「新聞」や「携帯サイト・配信サービス」、「通信教材の親向けの冊子」などを読むなど、日々の生活の中でふれるものから情報を得る様子がうかがえます。

Q 地域や民間の団体が主催している子育てに関するプログラムに参加されたことがありますか。具体的にどのようなところでしょうか。

表3-1
子育てプログラムへ参加したことがある (%)

	1歳児期	2歳児期		1歳児期	2歳児期
(妻)	57.3	59.4	(夫)	24.3	27.8

図3-5
参加したプログラムの主催者
※サンプル数は288人全員　※複数回答

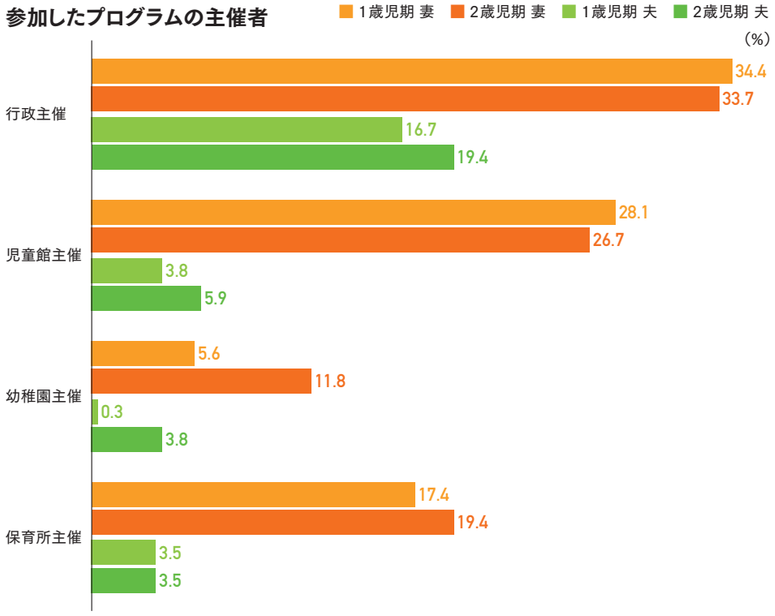


図3-6
友人たちの支えに満足していますか(2歳児期 妻)

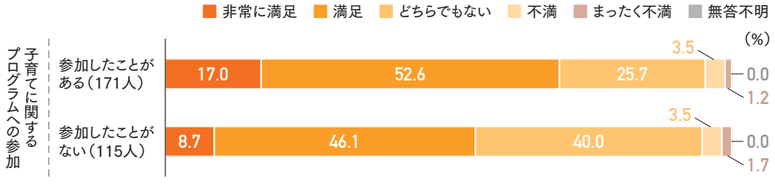
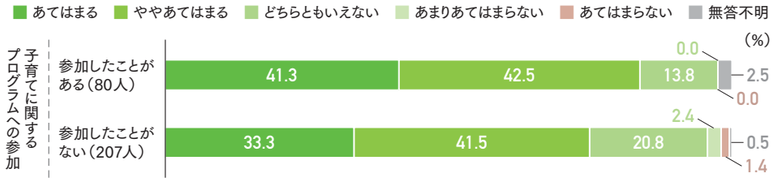


図3-7
子育てが楽しいと心から思う(2歳児期 夫)



1歳児期～2歳児期の子育てプログラムへの参加は妻が6割弱、夫が3割弱。行政、児童館主催が多い。

1歳児期から2歳児期の子育てプログラムへの参加をみると、妻は6割弱、夫は3割弱でした。図3-5をみると、妻の場合、行政と児童館の主催には3割前後の人が参加したことがあると答えています。2歳児期になると幼稚園や保育所主催が増える傾向がみられました。夫の場合、行政主催の子育てプログラムへの参加は2割弱みられるものの、他の主催については、1割に満たない状況でした。

子育てプログラムへの参加は、妻の場合は友人たちの支えへの満足、夫の場合は子育ての楽しさと関係する。

2歳児期で、子育てプログラムに参加した人とそうでない人とを比べたところ、妻の場合、図3-6「友人たちの支えに満足していますか」で「非常に満足＋満足」の割合は、参加したことがある人は 69.6％、ない人は54.8％と約15ポイント差でした。子育てプログラムへの参加は妻の友人ネットワークを広げる機会にもなると思われます。

夫の場合、図3-7「子育てが楽しいと心から思う」で「あてはまる」割合は、参加したことがある人は41.3％、ない人は33.3％でした。子育てプログラムへの参加は、夫の子育ての楽しさを育むのかもしれません。

Q 地域の中で、子どもを通じたおつきあいについておうかがいします。

○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人

図3-8

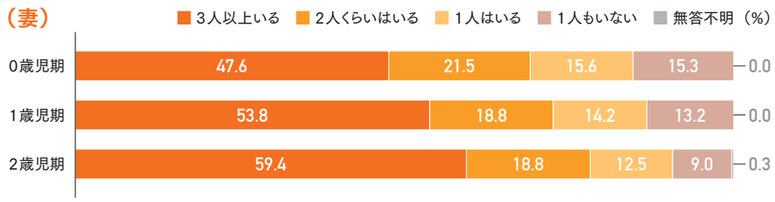
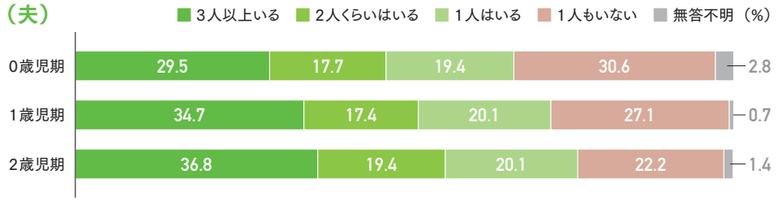


図3-9



子育ての悩みを相談できる人

図3-10

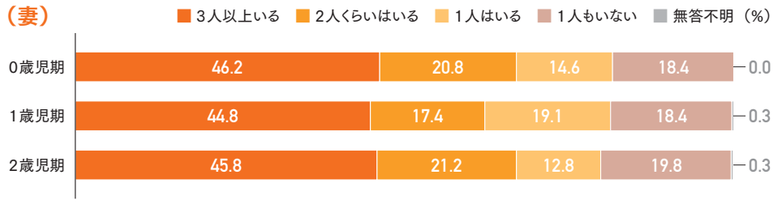
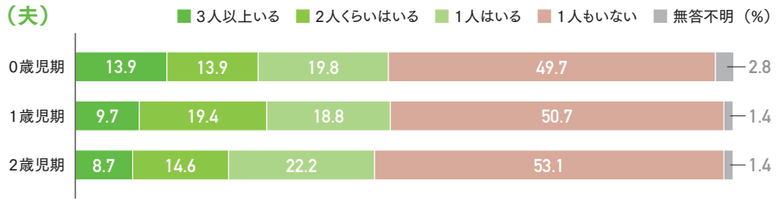


図3-11



「声をかけてくれる人」の数は増え、「悩みを相談できる人」の数は変わらない。

0歳児期から2歳児期にかけて、地域での子どもを通じたつきあいは子どもの成長にともない、どのように変化しているでしょうか。全体的に、妻のほうが夫に比べて人数が多い様子がみてとれます。

図3-8、図3-9をみると、「○○ちゃんのことを気にかけて、声をかけてくれる人」は、0歳児期から2歳児期にかけて妻・夫ともに人数が増える傾向がみられます。ここには載せていませんが、「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」「○○ちゃんがいけないことをしたら叱ってくれる人」「○○ちゃんを預けられる人」も同様に、0歳児期、1歳児期、2歳児期と増えていく傾向がみられました。一方、図3-10、図3-11をみると、「子育ての悩みを相談できる人」については、人数に変化がみられませんでした。

地域の中で、妻の場合、子どもを通じたネットワークは少しずつ広がっていますが、悩みを相談できるような深いつき合いのネットワークは変わらない様子がうかがえます。一方、夫の場合、全体的に地域でのネットワークの広がりがやや弱いようです。

POINT 3

調査検討委員会より こんなサポートが助かる

全体的に、子育てについて相談する人の広がりでは、妻と夫の差が大きく開いています。妻の場合、図3-1をみると妊娠期に家族や身近な人に相談する割合が高く、関係も維持される傾向にあります。図3-3でも年齢ごとに変化して専門性のあるサポートに相談をしている様子がうかがえますが、産科が減る中、また妊娠期から乳幼児期を通しての点からも、保健師に相談できる機会が増えるとさらにサポートが充実すると思われます。一方、夫の場合、図3-2、3をみると子育てについての相談や話し合いは妻に対しての頻度が高い状態で、専門性のあるサポートではとくに少ない傾向にあります。子育てサポートプログラムは地域差もあると思いますが、参加できる頻度が限られてしまうことからも受けにくくなっているのでしょう。ただ、図3-8では地域での子どもを通じたつきあいが子どもの年齢が上がるにつれて広がる様子もうかがえます。夫が父親として相談やサポートのネットワークを広げていけるよう、専門的なサポートに父親が相談しやすい窓口や担当の割合を多くすることも一案かもしれません。

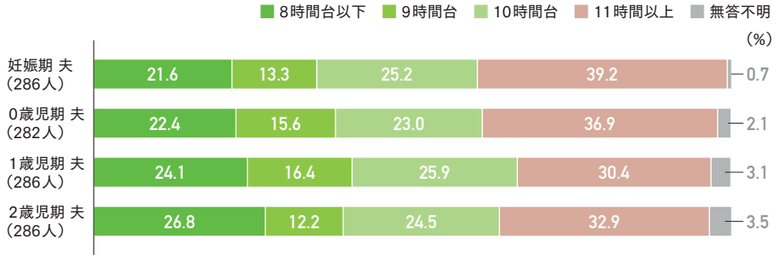
POINT 4 仕事と子育ての状況の変化

妊娠期から0歳、1歳、2歳と子どもが成長するときに、夫の仕事と子育ての状況はどうでしょうか。
夫の仕事の状況と、職場での経験、仕事と家庭生活の調整とバランス満足度からみていきます。
（妻は就業者のサンプルが少ないので、夫のみを紹介します。）

夫の実働時間

Q 1日の平均実働時間（仕事場までの通勤時間は除く）。

図4-1　※「仕事を持つ」と回答した人のみ



子どもの年齢にかかわらず、1日の実働時間が11時間以上の夫は3割以上。

夫に1日の平均実働時間を聞いた結果を、妊娠期から2歳児期まで表しています。妊娠期には「8時間台以下」21.6％、「11時間以上」39.2％でしたが、子どもが生まれた0歳児期以降、わずかに「8時間台以下」は増えています。ただ、「11時間以上」は変わらず3割を超え、半数以上の夫が10時間以上働いています。

職場での経験

Q あなたの仕事や職場で、最近1か月の間にどのようなことを経験しましたか。

表4-1　※「仕事を持つ」と回答した人のみ　※複数回答　※17項目のうち上位7位まで表示

妊娠期 夫（286人）（%）

1位	休日・休暇がとれない	24.8
2位	上司とあわない	22.0
3位	自分の裁量で仕事を進めることができない	21.3
4位	通勤に時間や体力をとられる	17.1
4位	事業が不振である	17.1
6位	自分の能力が正当に評価されない	15.7
7位	部下や同僚とうまくいかない	10.1

0歳児期 夫（282人）（%）

1位	仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている	46.1
2位	通勤に時間や体力をとられる	25.2
3位	休日・休暇がとれない	21.3
4位	自分の裁量で仕事を進めることができない	20.2
5位	上司とあわない	19.5
6位	事業が不振である	17.4
7位	自分の能力が正当に評価されない	16.0

1歳児期 夫（286人）（%）

1位	仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている	36.4
2位	事業が不振である	24.5
3位	通勤に時間や体力をとられる	23.8
4位	上司とあわない	22.0
5位	休日・休暇がとれない	21.7
6位	自分の裁量で仕事を進めることができない	17.5
7位	子どもの病気などで急用が入ったとき、すぐに迎えにいけないことが多い	14.0

2歳児期 夫（286人）（%）

1位	仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている	41.3
2位	休日・休暇がとれない	26.2
3位	通勤に時間や体力をとられる	22.4
4位	事業が不振である	21.3
5位	自分の裁量で仕事を進めることができない	20.6
6位	上司とあわない	18.9
7位	自分の能力が正当に評価されない	17.5

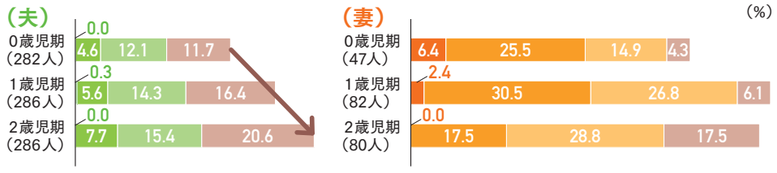
「仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている」夫が多い。

仕事を持つ夫に、最近1か月に仕事や職場で経験したことについて複数回答で聞いたところ、0歳児期から2歳児期を通して年齢にかかわらず「仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている」が多い傾向がみられました。

仕事と家庭生活の調整

Q あなたは、子どもの病気などが原因で会社を休んだり、遅刻・早退をしたことがありますか。

図4-2　※「仕事を持つ」と回答した人のみ。ただし「休職中」を除く。



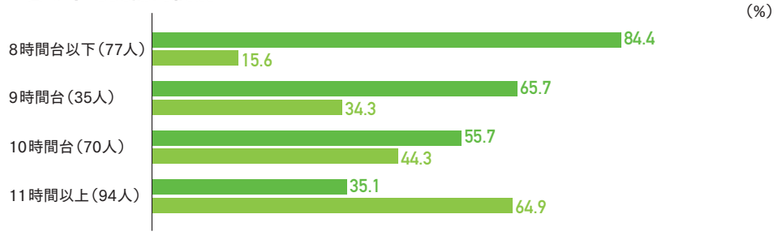
子どもの年齢があがると、夫も子どもの病気などでの遅刻や早退を行う人が増える。

子どもが病気などをしたとき、妻と夫は仕事の都合をつけて、どのくらい対応しているでしょうか。図4-2をみると、妻のほうがどの年齢も多く対応している様子がうかがえます。夫は、子どもの年齢があがると対応する人が増えていきます。

Q 仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている。（2歳児期 夫）

図4-3　※「仕事を持つ」と回答した人のみ

1日の平均実働時間別



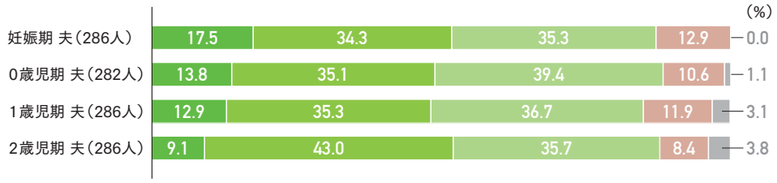
実働時間が11時間以上になると、仕事が忙しすぎるので子どもと過ごす時間が少ないと感じる人が多くなる。

表4-1では、0歳児期から2歳児期を通して、「仕事が忙しすぎるので、子どもと過ごす時間が少ないと感じている」の項目が1位でした。図4-3をみると、実働時間が「11時間以上」の場合、この項目に64.9％の人が「あてはまる」と答えています。

ワークライフバランスの満足度

Q あなたは、仕事と家庭生活のバランスに満足していますか。

図4-4　※「仕事を持つ」と回答した人のみ



仕事と家庭生活のバランスは、子どもの年齢があがるにつれて、「満足」が減る。

図4-4は、仕事を持つ夫に、仕事と家庭生活のバランス満足度を聞いた結果です。子どもの年齢があがるにつれて、「満足」が減っています。

ただ、「満足」と「やや満足」を合わせると、年齢による差はみられませんでした。

調査検討委員会より こんなサポートが助かる

図4-1をみると、子どもが0歳から2歳の時期、夫の実働11時間以上が3割を超える現状は、仕事の責任が重くなったり、不況の影響を受けたりすることを考えても、長時間労働であり、社会的な問題であるように思います。図4-3でも、「仕事が忙しすぎて子どもと過ごす時間が少ないと感じている」に回答した割合は、実働時間が8時間台以下の場合は15.6％であるのに対して、11時間以上の場合は64.9％に達しています。仕事と子育ての状況において、この問題は夫個人で解決を図ることは難しく、社会全体で短時間労働への意識変化や労働生産性の効率化を求めることが必要になってきているのではないでしょうか。また、表4-1の仕事や職場で最近1か月の間に経験したことについて、0歳児期から2歳児期で回答する割合が高かったことのひとつに「通勤に時間や体力をとられる」があります（0歳児期25.2％、1歳児期23.8％、2歳児期22.4％）。子どもとかかわる上でも、仕事と家庭生活のバランスの中に、体力的にバランスが取れているかという点にも、もう少し注目してもいいかもしれません。

妊娠期～2歳児期を通して

妻の場合

妊娠期から2歳児期を通して分析すると、妻の子育て肯定感に影響するものに「出産体験の良好さ」「夫婦の関係の良好さ」「家事育児ストレスの低さ」がみられる傾向にあります。

出産体験の良好さ →1
妊娠期～2歳児期の夫婦関係の良好さ →
0歳児期～2歳児期の家事育児ストレスの低さ →2
→ 2歳児期の妻の子育て肯定感 → 子どもにとっての良質な環境

夫の場合

妊娠期から2歳児期を通して分析すると、夫の子育て肯定感に影響するものに「就労時間の短さ」が「子育てをする頻度」に影響し、「子どもとの愛着関係」、さらに「子育て肯定感」につながる傾向がみられます。

妻の妻の妊娠時、自主的な子育て準備 →1
0歳児期の就労時間の短さ →
→ 0歳児期の子育て参加 →2
→ 1歳児期～2歳児期の子育て参加 → 子どもにとっての良質な環境
→ 1歳児期の子どもとの愛着関係 → 2歳児期の夫の子育て肯定感 → 子どもにとっての良質な環境

1 充実した出産経験が、0歳児期～1歳児期の子育ての自信と関連します。

お産を通して、リラックスすることができたと回答した人は、0歳児期、1歳児期での子育てへの自信が高い傾向にあります。

図5-1
お産全体を通して、リラックスすることができた（0歳児期）

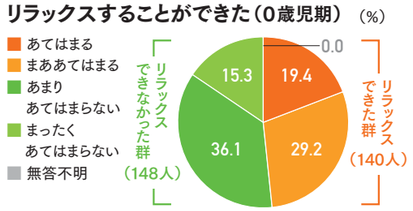
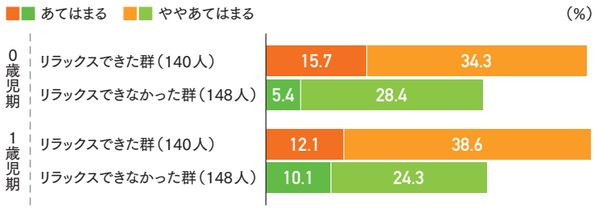


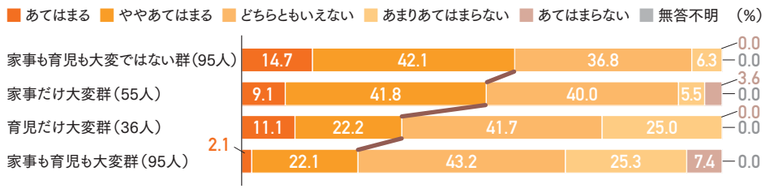
図5-2
子育てに自信が持てるようになった



2 乳幼児期には、育児に加えて家事も大変な場合、子育ての自信が少なくなる傾向があります。

家事も育児も大変に感じている群は子育ての自信がもっとも低く、育児だけ大変に感じている群も子育ての自信が低い傾向にあります。また、家事の大変さも子育ての自信と関係することがわかります。

図5-3
子育てに自信が持てるようになった（2歳児期）

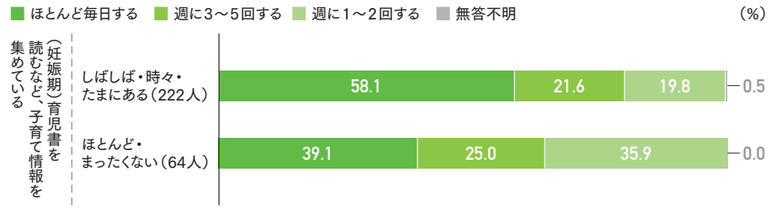


家事：「洗濯」「掃除」「炊事」／育児：「○○ちゃんと遊ぶ」「○○ちゃんのおむつ替え・トイレ」「○○ちゃんを寝かしつける」「○○ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」これらについて「とても大変である」＝5点、「やや大変である」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「あまり大変ではない」＝2点、「まったく大変ではない」＝1点として算出し、平均点より高い場合を「大変群」、低い場合を「大変でない群」とした

1 妻の妊娠期、子育て情報を集めるなどの準備が、子どもが0歳のときの育児参加と関連します。

妻の妊娠期に、育児書を読むなど、子育て情報を集めていた人のほうが、子どもが0歳児期に、遊ぶ頻度が高くなっています。また、おむつ替えやトイレ、寝かしつけでも同様の傾向がみられました。

図5-4
○○ちゃんと遊ぶ・どのくらいなさっていますか（0歳児期）

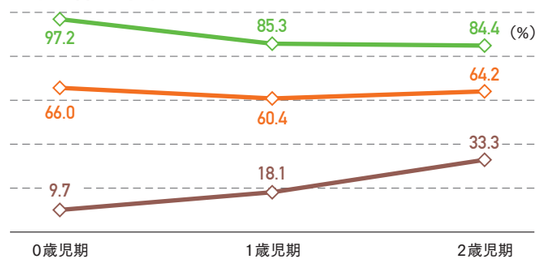


2 0歳児期の育児参加が多いと、その後も子育て参加が維持される傾向があります。

0歳児期での育児参加の頻度が高い人、中くらいの人、低い人の3群に分け、その人たちの0歳児期、1歳児期、2歳児期の「おむつ替え・トイレ」の頻度をみたものです。

妻の場合、ほとんどの人が満点近くなのですが、夫の場合、点数が分かれます。図5-5をみると、0歳児期の育児参加の頻度が高い人はその後も高い傾向にあることがわかります。遊びや寝かしつけでも同様の傾向がみられました。

図5-5
おむつ替え・トイレ（毎日・週3～5回）



0歳児期育児頻度得点
◇ 高群（109人）
◇ 中群（106人）
◇ 低群（72人）

「○○ちゃんと遊ぶ」「○○ちゃんのおむつ替え・トイレ」「○○ちゃんを寝かしつける」「○○ちゃんがぐずったとき、落ち着かせる」について、「ほとんど毎日する」＝4点、「週に3～5回する」＝3点、「週に1～2回する」＝2点、「ほとんどしない」＝1点として算出し、平均点を3区分した

調査検討委員会より

妊娠出産子育て基本調査・フォローアップ調査の妊娠期から2歳児期を通して、はじめての子どもを持つ妻と夫が、子育てに真面目に取り組み、子育てに楽しさを見出しながらも悩み、子どもの年齢があがるとともに子育てストレスも高まる傾向にあることがわかってきました。また、子どもの健やかな成長にとって妻・夫の生活の良質さに加え、子育てへの肯定感も大切であることがわかってきました。

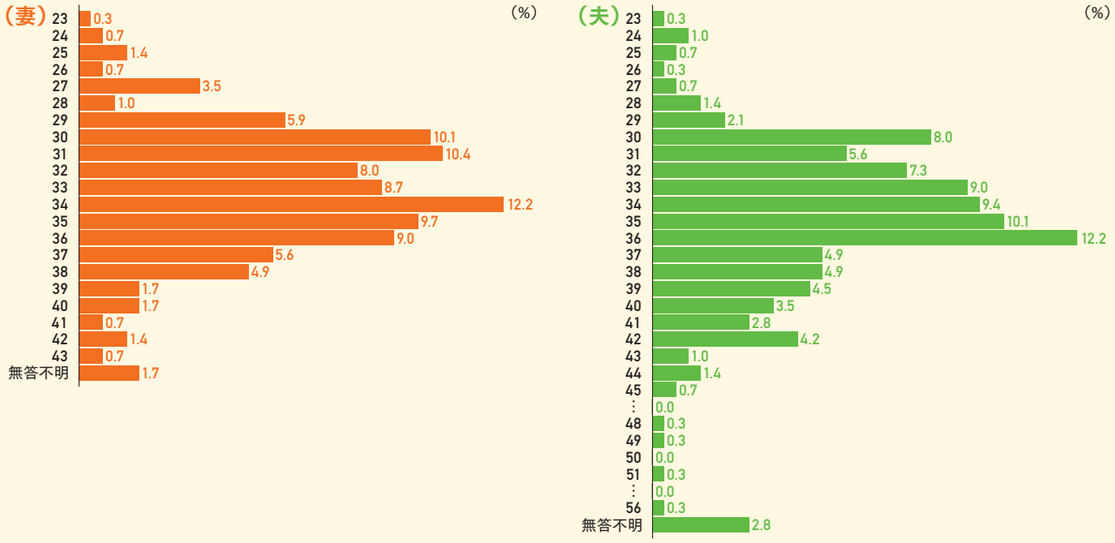
調査結果を分析すると、子育てへの肯定感は、妊娠中に育児に対する気持ちや実際の準備を整えることから始まっていると思われます。また、子どもを産み育てる中で、子どもと常に近くにいるために子どもの成長が見えにくく、親としての成長も感じづらい状況になる一方、少し離れてみることで子どもの成長や親としての成長が感じられるという傾向も少し見えました。子育て中の妻・夫が子どもへの見方を変え、成長への気付きができる機会が必要に思われます。

社会との関係でいえば、夫が子育てに参加することを歓迎する社会の流れがあっても、実際には家事・育児を妻が圧倒的に担っていることに変化はみられず、日本の労働条件が子育てにかなり大きく影響していることがわかってきました。妻・夫の生活の良質さをかなえるには、妻・夫個人の意識を変えるだけでは困難なように思われます。また、子育て家庭にはじめての子育てを早急にこなすことを求めるのはストレスが高く、専門知識による（縦型の）サポートだけでなく、親自身が取り組んだと思えるような（横型の）ピアサポートが受け入れやすいのではないでしょうか。

はじめての子どもを持つ親が親としてスムーズに発達し、子どもにとっての良質な環境が育まれるよう、ゆるやかな役割変化を許容し、支える社会を望みたいと思います。

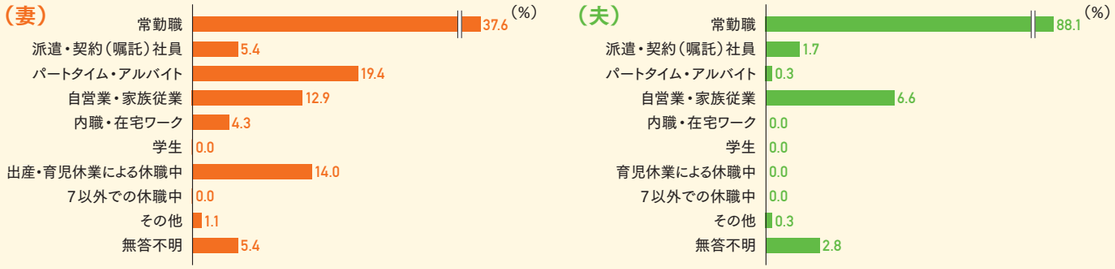
Research DATA（妊娠期～2歳児期）

現在の年齢（2歳児期）

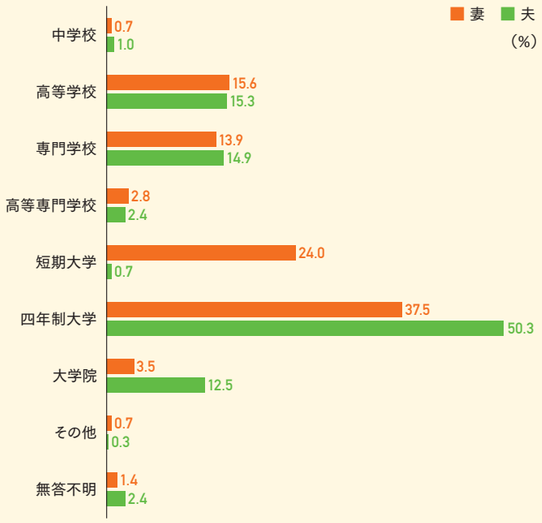


現在の職業（2歳児期）

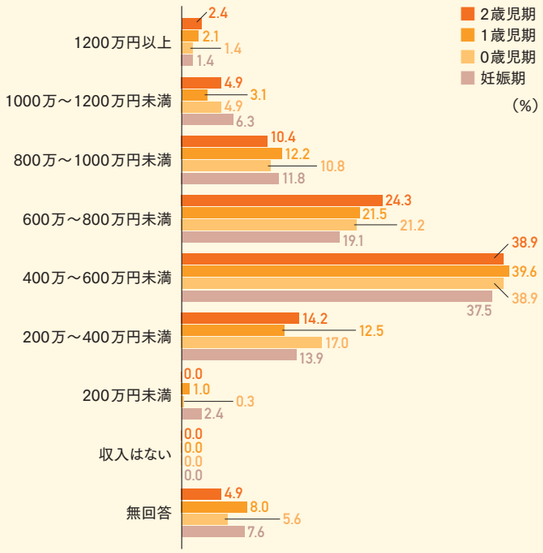
※「仕事を持つ」と回答した妻93人、夫286人の割合



最終学歴（2歳児期）



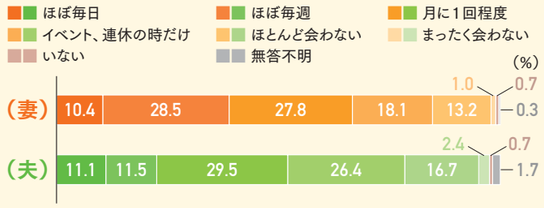
世帯収入（妊娠期～2歳児期 妻）



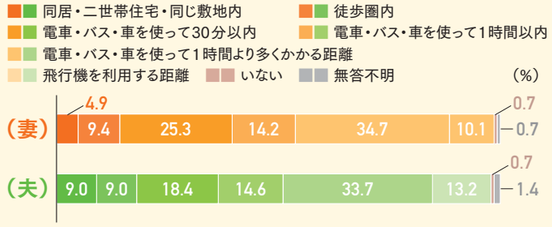
祖父母との関係（2歳児期）

※それぞれ自分の親について回答してもらった

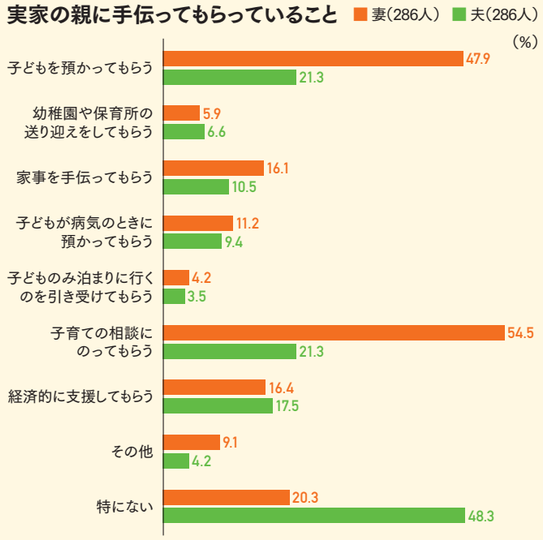
実家の親と会う頻度



実家の親との距離

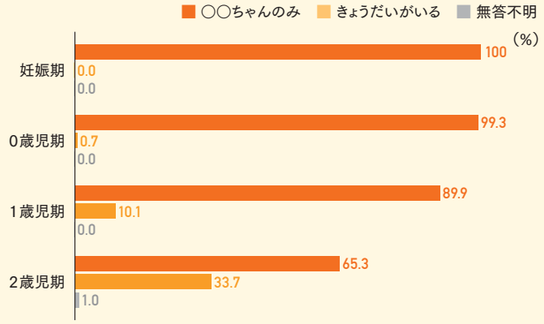


実家の親に手伝ってもらっていること

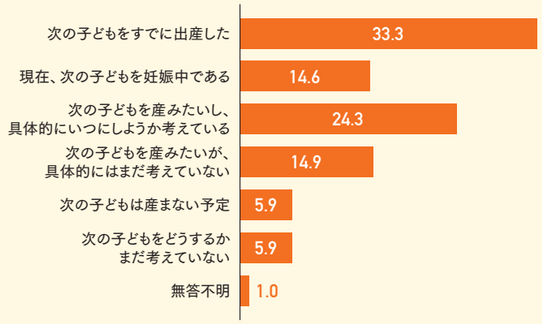


第2子意向

第2子以降の誕生の状況（妊娠期～2歳児期 妻）



第2子意向（2歳児期 妻）



DATA